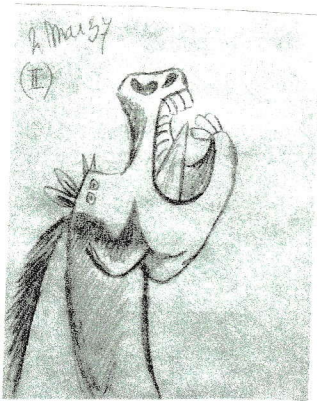


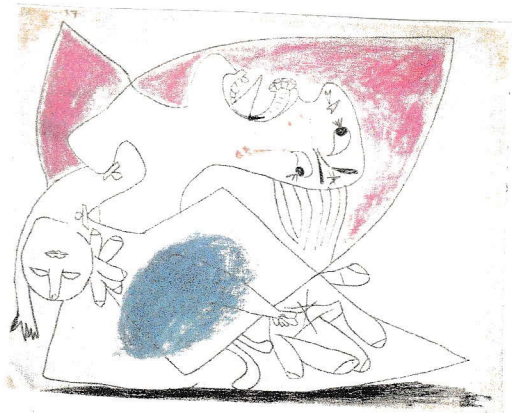
さまざまの形や色、材料を使い、(45)枚ものスケッチを描くなど、(試行錯誤)した末、見る者の心に迫る作品に仕上げました。

ゲルニカの悲劇をそのまま表現せず、死んだ子と母を抱く母親や瀕死の馬などで(象徴的)に表しました。



『ゲルニカのための習作』

練習のために作られた
作品のことを
(習作)という



『母親と死んだ子の習作』

↓
『死んだ子と母』

当時パリにいたピカソは、(万国博覧会)のために制作していた壁画を描きかえました。

「ゲルニカ」に

ゲルニカの幅は 約 (7.8) m もあります。